

平成23年5月10日（火）
国土交通省 関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所

記者発表資料

国営昭和記念公園、国営東京臨海広域防災公園
平成23年度事業の概要について

平成23年度における国営昭和記念公園及び国営東京臨海広域防災公園の事業概要がまとまりましたのでご案内いたします。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ
神奈川建設記者会
都庁記者クラブ
立川市政記者クラブ

問合せ先

所属：国土交通省関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所

【全体概要】

副所長 まつもと ひろし
松本 浩

電話：042-524-1516

【各公園の事業概要について】

<国営昭和記念公園>

調査・品質確保課長 さわだ だいすけ
澤田 大介

電話：042-524-1089

<国営東京臨海広域防災公園>

防災対策推進官 いしだ たけし
石田 武司

電話：03-3529-2171

平成23年度国営昭和記念公園の事業概要について

1. 事業概要

国営昭和記念公園	位 置	東京都立川市・昭島市
	計画面積	180.1ha
	供用面積	165.3ha(平成23年4月1日現在)
	入園者数	約370万人(平成22年度)
	事業費	国営公園整備費 1,580百万円*
		国営公園維持管理費 1,007百万円

* 執行留保分を含む。

2. 23年度事業のポイント

(1) 整備

1)こもれびの里 農家等建築工事 <資料-1>

平成19年10月にオープンしたこもれびの里の中心施設となる移築農家の建築(長屋門、外蔵等)について、昨年度に引き続き建築工事を行います。

2)公園施設等の改修工事

本公園の防災機能の強化を図るための園内の電気・通信設備等の改修工事や管理ヤード、公園のバリアフリー化を図るためのベンチ、スロープ等の整備工事等を実施します。

3)多客時対応のための施設増築工事

多客時であっても、来園者の方々に安全・快適にご利用頂けるよう、来年に供用開始20周年を迎える「こどもの森」を中心に、混雑しているトイレや休憩施設の整備工事を実施します。

(2)維持管理

1)公園利用状況

平成22年度 370万1千人 (みどりの文化ゾーン:78万0千人)

平成21年度 379万3千人 (みどりの文化ゾーン:74万6千人)

・ペット入園数 約7.8万頭 (平成21年度 約8.1万頭)

・最大入園者数 4月10日(土) 92,737人 (昭和記念公園花火大会日除く)

2)平成23年度公園管理の特徴

・大規模イベントの実施

電力供給状況を踏まえ節電に努めつつ、供用区域の適正な維持管理を行うとともに、当公園を代表するイベントである「コスモスマつり」等について充実を図ります。

主な行事予定については、<資料-2>参照

3) 無料開園日

毎年、国が提唱し、全国的に実施している「春の都市緑化推進運動」、「秋の都市緑化月間」などの行事にあわせて、都市公園、都市緑化の円滑な推進を図り、広く国民の理解と協力を得るために、国営公園における無料開園を実施します。

期 日	設定趣旨	対 象	実施イベント
4/17(日)	春の都市緑化 推進運動	全員	山野草展、サンデースポーツ教室
4/29(祝)	国民の休日 (昭和の日)	全員	バードカービング展
5/ 5(祝)	国民の休日 (こどもの日)	子供 (小学生・ 中学生)	バードカービング展、 こどもの森草笛教室 スポーツフェスティバル
9/19(祝)	国民の休日 (敬老の日)	65歳以上	コスモスまつり
10/16(日)	秋の 都市緑化月間	全員	コスモスまつり、山野草展、 サンデースポーツ教室
10/30(日)	秋の 都市緑化月間	全員	コスモスまつり バードカービング展

※イベント予定は変更することがあります

以 上

こもれびの里について

こもれびの里は、昭和30年代の武蔵野の農村風景を再現するため、「昭和・武蔵野・農業」をテーマに、農業や年中行事など様々な体験を通じて、自然と暮らしの知恵を伝えていくエリアです。

平成14年9月に発足したボランティア団体「こもれびの里クラブ」と公園事業者が、田畑や施設整備、管理運営のあり方について、ワークショップなどを通じて共に検討しながら整備・運営を行っています。

平成19年10月に開園しましたが、こもれびの里の中心となる農家が未整備となっていたため、平成21年度より建築工事に着手しました。平成23年度は、主屋に引き続き、長屋門、外蔵等の建築工事を実施します。



※最近の整備状況写真



平成23年度 国営昭和記念公園の主な行事予定について

○主な行事

	実施期間	行事内容
H23	6/4 (土) ~6/12 (日)	ハーブガイドツアー
	7/16 (土) ~9/4 (日)	サマーフェスティバル
	8/5 (土) ~8/31 (水)	サギソウまつり
	9/17 (土) ~11/3 (水・祝)	コスモスまつり
	10/8 (土) ~11/6 (日)	第15回 よみがえる樹々のいのち展
	10/15 (土)	第88回 東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
	11/5 (土) ~11/23 (火)	紅葉まつり
	12/3 (土) ~12/25 (日)	Winter Vista Illumination
H24	2/26 (日)	42.195 kmリレーマラソン 第21回国営昭和記念公園大会

*今年の「国営昭和記念公園花火大会」は中止となりました。

○年間複数回実施するイベント

- ・カムバック武蔵野 多摩の雑木林を育てよう (年2回 6/26 (日)、9/11 (日))
- ・山野草展 (年5回 4/16~17、5/14~15、5/21~22、10/8~9、10/15~16)
- ・バードカービング展 (年2回 4/29 (金・祝) ~5/5 (木・祝)、10/29 (土) ~11/6 (日))
- ・スポーツフェスティバル (年2回 5/5 (木・祝)、10/10 (月・祝))
- ・盆栽教室 (講義: 6/4、10/9 実技: 5/28、6/18、9/18、11/26、12/10、12/17、3/4)
- ・こもれびの里「行事飾り」 (年12回 4/23~5/5 (端午の節句)、6/11~6/17 (鎌洗い)、7/2~7/8 (七夕)、7/9~7/16 (お盆)、9/17~9/22 (十五夜)、10/19~10/21 (十三夜)、10/29~10/30 (おかまの団子)、12/24~1/6 (正月飾り)、1/7~1/13 (小正月)、2/3 (節分)、2/4 (初午)、2/25~3/3 (ひなまつり))

○定期的な行事 (各月)

- ・第1日曜日・第3土曜日・こどもの日 こどもの森草笛教室
- ・第2日曜日 お茶を楽しむ会
- ・第2・第4土曜日 こどもの森教室
- ・第3日曜日 (7・8・3月を除く) サンデースポーツ教室
- ・第4日曜日 (4・5・12・3月を除く) エンジョイ! ディスクゴルフ
- ・第1日曜日 (1月を除く) ペタンク探求講座
- ・第4日曜日 (7・8月を除く) 野鳥観察会
- ・第4土曜日 こもれび講話

*イベントは予定であり、内容・期間は変更する場合があります。

*詳しくは、各イベント前にHPなどでお知らせします。

平成23年度国営東京臨海広域防災公園の事業概要

1. 事業概要

基幹的広域防災拠点有明の丘地区は、首都圏における大規模な地震災害等に際し、広域防災のヘッドクォーターとして機能する防災拠点です。事業化にあたり、わが国初の国営防災公園事業「国営東京臨海広域防災公園」として、都立公園と一体的に整備を行い、平成22年7月に開園しました。

平常時は、「防災体験学習施設 そなエリア東京」を中心に、防災に関する学習・訓練・情報発信などを行っております。

位 置：東京都江東区有明二丁目及び三丁目

計画面積：6.7ha（東京都整備とあわせて13.2ha）

主要施設：本部棟（「防災拠点施設（内閣府施設）」と「防災体験学習施設 そなエリア東京（公園施設）」の合築）、ヘリポート、多目的広場等

2. 23年度事業のポイント

<事業費>

国営公園維持管理費 155百万円

<概要>

○維持管理費

- ・市場化テストにより選定された運営事業者による公園の運営維持管理を実施します。
- ・公園の運営状況等についてモニタリング調査を行い、今後の公園運営に反映させます。

3. 参考

《22年度公園利用状況》7月1日開園以降

○「防災体験学習施設 そなエリア東京」

入館者数 80,668人

（園地を含めた入園者数 153,033人）

○入館者の属性

家族連れその他、国、都、県、市役所等の行政機関、消防署・消防団・自主防災組織、学校関連の関係者から、民間企業、外国人（中国、韓国、オランダ、インドネシアなど）の方など多岐にわたっております。

○関係機関による訓練、講習会の実施

【訓練】8月29日 東京都・文京区合同総合防災訓練

ヘリによる人員・物資搬送、トラックによる物資搬送

9月1日 政府総合防災訓練

ヘリによるDMAT搬送

など、大規模訓練等に活用されました。

【講習会】年間を通して、災害・防災に係るボランティアによる講習会などに利用されました。

○イベントの会場利用

東京マラソンの関連イベント「東京大マラソン祭り」「東京マラソンファミリーラン」の会場として園地が利用されました。

園内施設

本公園は、首都圏で大規模な地震災害等が発生したときに公園全体が広域的な指令機能を受け持つヘッドクォーター等となり、平常時には防災に関する学習・訓練・情報発信などの拠点として機能する基幹的な広域防災拠点であるとともに、人々の魅力的な憩いの場となるよう、東京湾臨海部の緑の拠点として臨海副都心におけるにぎわいと交流の空間を提供します。

②ヘリポート

本部要員、救護や傷病者、緊急物資の空輸など大型ヘリコプターの利用も可能な場外離着陸場です。



発災時運用イメージ (平成21年8月自衛隊統合訓練)

③エントランス広場

発災時には災害時医療支援体制の支援機能を発揮するスペースです。



災害時医療支援運用イメージ

(平成20年9月東京都総合防災訓練、平成21年1月災害医療センター訓練)

④多目的広場・草地広場

発災時には、広域支援部隊・ボランティアなどが活動・統制所等として機能する場です。



広域支援部隊等展開イメージ

(平成22年11月緊急消防援助隊訓練)

①本部棟

災害発生時には国と九都府市※の合同現地対策本部が設置され、平常時には防災に関する学習・情報発信の拠点となる体験学習施設等となる本公園の中心施設で鉄筋コンクリート造2階建て延べ床面積約9,500㎡。屋上や壁面の一部は緑化しています。

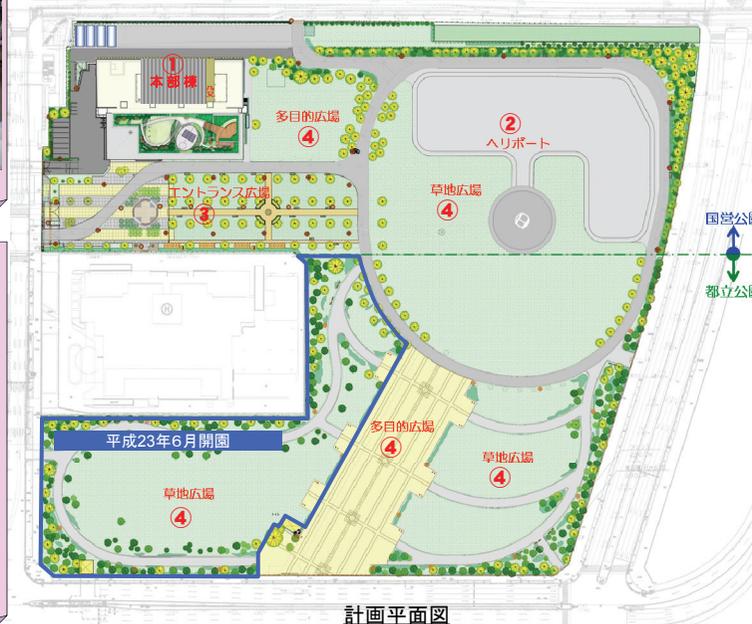
※:埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市



現地対策本部運用イメージ
(平成23年1月政府総合図上訓練)



体験学習施設(1階)



計画平面図

- ②ヘリポート
- ③エントランス広場
- ④多目的広場・草地広場

平常時は、各種防災訓練や学習、来園者の憩いの場として利用されています。



エントランス広場からヘリポート、草地広場を望む



東京都・文京区合同総合防災訓練(平成22年8月)



東京マラソンファミリーラン(平成23年2月)